

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 56 号

平成20年9月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

| | | | |
|--------------------|-----|-------------------------|-----|
| 目次 | P.1 | 渡邊翼先生退職記念祝賀会・岩田先生退職パーティ | P.4 |
| 平成20年度定期総会報告 | P.2 | 神谷先生(近況) | P.6 |
| 緒方先生講演会報告 | P.3 | 体育祭報告・川内先生写真展 | P.7 |
| 天野先生教授昇進・同期会助成について | P.4 | お知らせ | P.8 |

3D深海生物映像の観覧



前日の奮闘水槽準備



ダンスサークル「飛燕」の熱演



タッチプールと担当学生



「海フェスタいわて」で活躍する在校生

三水会総会報告

F A 8期 内藤文隆



平成20年5月17日白金キャンパスにおいて、平成20年度三水会定期総会が開催されました。

代議員総数52名に對して、出席29名、委任状提出13名、欠席10名で定刻の6時に開会となりました。議長に奥村誠一氏(5期増殖、写真右)、議事録署名人に石川義行氏(1期食品)と上田俊郎氏(5期増殖)を選出後、執行部より平成19年度の事業報告と決算報告が行われ、続いて監査報告が行われました。19年度の事業報告および決算報告について代議員に諮り、報告通りの内容で賛成多数により承認されました。引き続き、平成20年度の事業計画と予算案について執行部より説明があり、質疑の後、原案通り承認されました。

今回の総会ではホームページのリニューアルについて担当の柳澤委員から説明が行われ、今後の企画・運営に関して、承認されました。なお、今後は会報や水産学部だよりをホームページ上に掲載す

るなど、新たな取り組みが行われます。また、20年度事業計画では『卒業30年の集い』(仮称)と称して、学部卒業後30年を迎える(越える)会員の親睦会を後援する新しい企画がスタートいたします。

『平成20年度事業計画』

1. 会報の発行
同窓生の動向、学部の現状、各種の情報などを内容とした会報を平成20年9月と平成21年3月の二回発行する。

2. 三水会ホームページの管理
会員に對し本会の情報を迅速、かつ充実した内容を提供する。

3. 会員の現状の把握
全孝子同窓会と連携し、名簿情報の正確性の向上に努める。

4. 親睦会の開催
① 卒業30年を経過した会員を対象とした、親睦会を開催する。
② 九州地区の会員を対象とした、親睦会を開催する。

5. 同期会等の助成
同期会、講座別OB会および地方親睦会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

6. 懇談会の開催
大学・水産学部在生との懇談会を開催し意見交換を行う。

7. 課外活動助成
クラブの活動経費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

8. 就職ガイダンスの開催
各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行う。

9. 漁船海難遺児育英会寄付
漁船海難等により親を亡くした

子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に對し寄付を行う。



平成19年度収支決算書

| 支出の部 | | 収入の部 | |
|----------------|-----------|------------|-----------|
| 科目 | 予算額 | 科目 | 決算額 |
| 1. 事業費 | 3,900,000 | 1. 部会助成金 | 4,200,000 |
| (1) 会報発行費 | 1,850,000 | 2. 会報郵送料補助 | 542,000 |
| (2) 学部だより配布費 | 300,000 | 4. 前年度繰越金 | 1,717,067 |
| (3) 親睦会の開催 | 800,000 | 5. 貯金利息 | 1,000 |
| (4) 同期会助成費 | 200,000 | 6. 雑収入 | 129,000 |
| (5) 大学・学生との懇談会 | 100,000 | | |
| (6) 課外活動助成金 | 200,000 | | |
| (7) 就職ガイダンス | 250,000 | | |
| (8) ホームページ開設費 | 150,000 | | |
| (9) 漁船海難遺児育英会 | 50,000 | | |
| 2. 運営・管理費 | 2,370,000 | | |
| (1) 印刷・通信費 | 420,000 | | |
| (2) 会議費 | 700,000 | | |
| (3) 総会費 | 250,000 | | |
| (4) 事務局費 | 950,000 | | |
| (5) 慶弔費 | 50,000 | | |
| 3. 予備費 | 290,000 | | |
| 次年度繰越金 | | | 1,430,587 |
| 合計 | 6,560,067 | 合計 | 6,560,067 |

平成20年度予算

| 支出の部 | | 収入の部 | |
|-----------------|-----------|------------|-----------|
| 科目 | 予算額 | 科目 | 予算額 |
| 1. 事業費 | 3,400,000 | 1. 部会助成金 | 4,410,000 |
| (1) 会報発行費 | 1,900,000 | 2. 会報郵送料補助 | 558,000 |
| (2) ホームページ運営管理費 | 200,000 | 3. 前年度繰越金 | 1,430,587 |
| (3) 親睦会の開催 | 500,000 | 4. 貯金利息 | 3,000 |
| (4) 同期会助成費 | 200,000 | 5. 雑収入 | 100,000 |
| (5) 大学・学生との懇談会 | 100,000 | | |
| (6) 課外活動助成費 | 200,000 | | |
| (7) 就職ガイダンス | 250,000 | | |
| (8) 漁船海難遺児育英会寄付 | 50,000 | | |
| 2. 運営・管理費 | 2,370,000 | | |
| (1) 印刷・通信費 | 420,000 | | |
| (2) 会議費 | 700,000 | | |
| (3) 総会費 | 250,000 | | |
| (4) 事務局費 | 950,000 | | |
| (5) 慶弔費 | 50,000 | | |
| 3. 予備費 | 731,587 | | |
| 合計 | 6,501,587 | 合計 | 6,501,587 |

緒方学部長近況講演

F A 8期 内藤文隆

平成20年三水会定期総会終了後、緒方学部長をお招きして、水産学部近況についてご講演をいただきました。

会員の皆様もご存じのように、この4月より学部の名称が海洋生命科学部に変更になりました。名称変更についてのご説明では、海洋生物をどう利用できるかという点を軸に考えており、あくまで『水産』を基本とした学部であるとのご説明でした。また、最近の入試状況についてもお話しをいただき、今年度は志願者数が対前年比で大幅に増加したとのことでした。それについては、名称変更や入試制度の変更など様々な要因があるとのことでした。



授業については学生実験の体系化を進めて少人数での実習を目指すなど、改革を進めているようです。施設についてはトイレを新しくして大変好評とのことでした。さらに、近々、学生実験棟を新設する計画もあるようです。研究に

おいては、海洋バイオ研究所（釜石）や海洋研究開発機構との連携によって施設の利用や、学生の研修、実習などに協力を依頼するなど新しい試みを実施しているとのことでした。また、三陸における学生の住環境や通学手段、精神面のケアなど地域独特の問題点も課題として残っているとのことでした。

講演終了後、大学本部食堂にて懇親会が開催されました。懇親会ではお忙しい中、大勢の会員の方々に参加をいただき、終始盛況のうちには話が過ぎましたが、惜しまれつつ閉会となりました。

「水産学部卒業後三十年」 集会後援について

第一期生が1976年水産学部を卒業し、すでに30年が経過しました。そして本年、第三期生が卒業30年目を迎える事になります。

この30年を節目に、同期会、研究室OB会等を、企画、検討されている皆様へ、三水会では、企画集会対象名簿の発行、案内状郵送料等、一部助成金の援助を平成20年度より、事業の一貫として開始しました。詳細は、三水会事務局まで問い合わせ下さい。

海洋生命科学部学生課便り

三水会の皆様には常日頃お世話になっております。皆様のご活躍が様々なところから届きますと、誇らしく頼もしくおもいます。先生方の人事をお知らせ致します。

■教員人事

○昇任

准教授から教授

天野 勝文(魚類生理学)

平成20年4月1日付

講師から准教授

中村 修(水族病理学)

平成19年9月1日付

神保 充(水産資源化学)

平成20年1月1日付

助教から講師

筒井 繁行(水族病理学)

平成19年9月1日付

横山 雄彦(水産食品化学)

平成20年1月1日付

○新任

教授

大島 泰克(水産資源化学)

平成20年4月1日付

教授

坂本 元五郎(教職課程)

平成20年4月1日付

講師

池田 大介(水産食品化学)

平成20年4月1日付

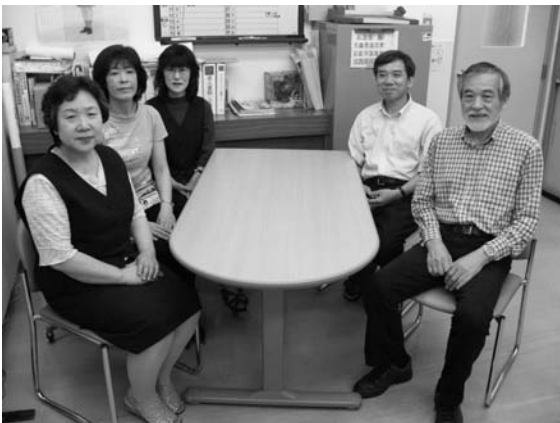
助教

渡邊 龍一(水産資源化学)

平成20年4月1日付

学生課にも異動がありました。

中嶋勇喜課長補佐は学生課と教務課を兼務、熊谷ティ子係長は教務課から学生課に、今野洋子さんは教務課に平成19年10月1日付異動になりました。保健師の和田睦子さんが退職され、看護師の花崎さち子さんが平成19年4月23日付採用になっております。学生課の業務も多様化しておりますが、見玉学生指導委員長のもとで、皆様の応援を頂きながら精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。



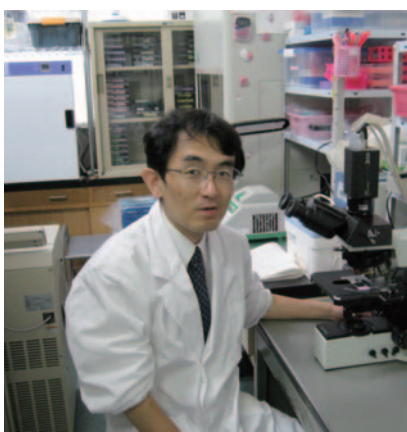
学生課スタッフ一同…左から熊谷ティ子、花崎さち子、佐藤美津子、中嶋勇喜、見玉正昭(敬称略)

増殖生物学講座教授に 就任して

天野 勝文

平成20年4月に増殖生物学講座教授に就任いたしました。北里大学水産学部には、平成9年4月に専任講師として赴任しました。赴任前は、東京大学農学部水産学科と水産庁養殖研究所日光支所で、主にサケ科魚類を用いて、魚類の性成熟の内分泌機構についての研究をしていました。

思い返して見ますと、北里大学水産学部には赴任前から縁がありました。出身研究室の先輩である山森邦夫先生がいらしたことが、大学院時代には川内浩司先生にサケの生殖腺刺激ホルモンとその抗体をいただいて研究を進めていたこと、日光支所でご指導を受けていました岩田宗彦先生と学会等で世話になっていました高橋明義先



生がいらしたことから、赴任に際して特に不安はありませんでした。日光支所には

岩田先生の研究室から4年生が卒業研究のために出向していましたが、彼らが皆、好青年であったことも水産学部の良い印象を与えてくれました。赴任に際して、昨年お亡くなりになられた羽生功先生から、北里大水産学部は研究が十分にできる大学だから頑張りなさい、とのお言葉をいただいたことを昨日のこのように思い出します。

赴任してみますと、三陸の冬の寒さと雪も、奥日光のそれと比較しますとたいしたことはありませんでした。日光は三陸と同様に過疎地ではありますが、休日は観光客でにぎやかになります。その点で三陸は少し寂しく感じました。しかし、最近では三陸での生活も私の赴任当時から比べるとずいぶん便利になってきました。不便なのは書籍の購入くらいでしょうか？



水産学部に赴任してからは、魚類の性成熟に関する研究に加えて、魚類の食欲・自発摂餌、水産無脊椎動物の神経ペプチドに関する研究なども行っています。学部内の他の先生方とも共同研究をさせていただき、研究を進展させてきました。最近は大学院に進学する学生も増え、4年生も皆、一生懸命に課題をこなしてくれて非常に感謝しております。学会発表については自分の発表よりも学生が発表する機会が増えてきて、頼もしく思っています。卒業生が活躍する日も近いと信じています。また、大学時代の同級生、先輩、後輩の多くが水産学の世界で活躍されており、その関係で共同研究の機会が増えていくことも、私にとりましては大きな財産となっています。

平成20年は水産学部から海洋生命科学部に学部名称が変更になった節目の年です。今後は、心を新たにしまして自分自身の研究に精進するのはもちろんのこと、学生の教育および学部運営業務につきましてもこれまで以上に努力する所存です。最後になりましたが、今までお世話になりました多くの方々にこの場をお借りして感謝するとともに、海洋生命科学部の発展に皆様のご支援をお願い申し上げます。

渡邊 翼 先生退職記念祝賀会に出席して

FA4期 相川 規子(北田)



先般、四月十一日 東京上海飯店において、渡邊 翼 先生退職記念祝賀の集いに出席の機会を頂き、気温差十度の東端根室からの参加となりました。

卒業後三十年近くも経ち、息子の様な後輩ばかりで、少々面食らいながらも先生ご夫妻がおいでになる頃には、同年代に近い卒業生も集い始め、あちこちで「覚えてる？」の聲が上がっていました。ご夫妻共お元気な様子で、お会いするのは実に、吉浜のお宅に夜半徒党を成してなだれ込み大騒ぎしてそのまま卒業して以来です。(その節は、ご迷惑をおかけしました) 会が始まり乾杯の後、これまでの研究室の歴代のスナップ写真が映し出されると、五十を過ぎた脳みそでも次々と名前が浮かぶのは、まだまだ捨てたものではないかと一安心。写真一つとつても、一期生の頃の白黒写真から始ま

り、変色したカラー写真、デジカメへと、又画面の中の学生も、大人数の集合写真から時代が進むと共にグループ写真、少人数へと時代の移ろいを感じさせられたひとときでした。

会食中もお二人とも記念写真の引つ張りだこで、ご夫妻と卒業生達の笑顔がとても素敵に感じられ一期生から現在に至るまで続いた渡邊研究室に在籍した者の特権と思わずにはいられません。

今後は先生も悠々自適の毎日との事、期を同じくして北海道でも支部発足の運びとなりました。どうぞ奥様と二人で健康第一を守られ、自由人最初の旅はぜひ故郷北海道に舵を向けて頂きたいと思えます。

最後の乾杯の時となり、ご夫妻をお見送りし散会の後、駅への道すがら三陸のあの空間に再び戻れた事に感謝しつつ私も北海道への帰路につきま



ました。最後になりましたが、このたびの祝賀会を支えて下さった発起人の方々のご苦勞に感謝いたします。

水産増殖学講座 岩田研究室同窓会 ～岩田宗彦教授の卒業を祝う会～

F A 21期 杉本晶子

2008年6月7日(土)「南部どり 赤坂店」にて岩田宗彦教授の卒業を祝う会が行われました。

1995年～2008年度の卒業生50名と千葉弘明准教授が集まり、卒業生主体の気軽な集まりとなりました。予想以上の参加申し込みがあり、急遽会場を変更しての開催となりました。「南部どり 赤坂店」は、岩手県大船渡市に本社のある「アマタケ」の飲食店です。多くの鶏料理や、酔仙など岩手の地酒もならば、大学在学時代を懐かしく思い出しました。

会場では、各年代ごとにテーブルがセットされ、久々にあった同期と近況を語り合い、先輩や後輩と話がはずみ、あちこちから笑い声が聞こえていました。岩田先生のテーブルでは、1995年～2007年までの写真が、プロジェクトで絶えず映し出されています。「懐かしいね」「あれって



あの人？」などと、とても会話が弾んでいました。また、各学年から一つずつのプレゼントを先生に贈りました。計10個のプレゼントの数の多さに一喜一憂されながらも、喜んでいただけました。先生の周りには、次々に卒業生が訪ね、少し慌しい様子でしたが、先生はお酒を飲むのも忘れ会話を弾ませていました。

2時間という限られた時間は、あつという間でした。会の最後に、参加者それぞれがお祝いメッセージを書いたハガキをファイルにまとめ、先生にプレゼントしました。短い時間でしたが、世代を越えたつながりが芽生え、とても楽しいひとときとなりました。

現在、岩田先生は自給自足を旗に掲げ、岩手県花巻市で農地を開拓されています。先日、以前から申請していた農地の一部の宅地申請に許可がおりたと、連絡を受けました。今年はどこまで作業が進むのか楽しみです。今後は、毎年6月の第一土曜日に「岩田会」として、岩田研究室同窓会を開催していきます。

この会を開催するにあたり、昨

年よりお手伝いいただきました卒業生の皆様、千葉先生、三水会会長に厚くお礼申し上げます。



「同期会等助成について」

三水会では事業の一貫として、同期会、研究室OB会、クラブOB会、その他親睦会等、卒業生の集会に対し、下記の要項にて助成金の援助を行っていますので、ご利用下さい。

記

- 1、助成対象： 卒業生10名以上の集会
- 2、助成金額： 下限<10名で一万円> 上限<30名以上で三万円>
*10名から一名につき一千元 例(16名で1万6千円)
- 3、助成期限： 1団体、年一回の適用
申請、問い合わせは三水会事務局まで

定年生活テンヤワンヤ

神谷 久男

昨年3月の学園退職後は、本や総説の執筆、頼まれ講義にボランティア活動、趣味の庭仕事と気ままな生活を満喫しております。

と、近況を優雅に報告したいところですが、そううまくいかないのが現実。単身赴任から解放されてホッとしたのも束の間で、何もやることがない空白感、虚脱感が心に重くのしかかる日が続ききました。参考にしたらと家内がくれた「シクステイーズの……」なる定年生活の入門書。老後を心豊かに過すよそ様の経験なんぞと、手も触れないまま。たまの外出で駅の階段を駆け上り、駆け下って電車に滑り込めば心臓は波打ち脚が縛れる。窓に映った肩で息をする白髪姿は……アッ俺か。旧友との待合せに早く着き過ぎたが、時間を潰す方法が浮ばず、ボンヤリ山手線を一周。一寸したことでも考えるのが面倒になる心の老化現象に



とりつかれました。

これは危ない、せめて体力だけでも取り戻そうと近くのジムに通いはじめたのが7月。メタボの体型なのに浮きが悪く、短いプールを往復するのが精一杯。マラソン器械に乗れば速度調節がうまくできずに前にのめって四つん這い、係員が飛んでくる。ボケ防止と挑戦した韓国語も三カ月でギブアップ。それでも敢行したソウルへの家族旅行では看板が読めず、わからず、なによと笑われる。パソコン使えば、いつの間にかPDFWordで埒も無い文献検索している有様。頭の切り替え、思ったようにいきません。もう趣味に生きたらといわれましたが、私の趣味ってなんだっけ。

悪戦苦闘していた頃、パティシエをしている次女が「作りたい菓子をいい材料で作って食べて貰うのが長年の夢。夢を実現するのは今しかない」と独立宣言。テンヤワンヤの家内と私を尻目に、彼女は着々と準備を進め、昨年末にオーブン菓子の専門店「チェシャ(Cheshire)」を開店しました。菓子を焼くのも売るのも一人でやるという彼女にそりゃ大変でしょ、家内はレジを、私は午前中の開店準備と閉店後の片付けを手伝う(晴の日だけ!)ことにしました。こ



ういうのも親孝行というのでしよう、生活にリズムができて体力も戻り、5月には盛岡で6時間の集中講義をこなしてきました。

開店から七カ月、多くの応援を頂いて出足はまずまず順調、手造りの評判も良いので一安心しています。気懸りはバターなど材料の品薄さ、高騰。こればかりは個人の頑張りではどうすることも出来ません。TVに流れる解説者の空論と場当たり行政には苛立つばかり、むかしの「農学栄えて農業滅ぶ」という悪口が今でもピツタリな気がします。こんなわけで、生命科学とは疎遠になりましたが、日銭が頼りの世界にチョットばかり係わって新鮮でスリリングな日々を送っています。

写真は娘が描いた「ネコの看板」と小生の労作、お客に配ったイースターエッグと看板。場所は京王線下高井戸駅から日大通り徒歩5分。

HP: <http://www.cheshire-sweets.com> をみて下さい。(8月末 up)。

体育祭報告

北里大学水産学部体育祭

実行委員長

F-06037 神島 聡太郎

第35回水産学部体育祭が5月10、11日にかけて行われました。今年は去年と同様、ソフトボール、フットサル、ドッジボール、3on3の4種類での競技もたくさんの方が参加しました。優勝を狙ってるチームや楽しくプレイしているチーム、教員が加わってるチームなど様々なチームが集まり、全体的にとっても面白い試合となりました。1日目は天候が良かったのですが、2日目は天候が悪くなってしまう、ソフトボールの雨天中止が危ぶまれましたが、優勝チームが相模原キャンパスでのK・1に出場できるということもあり、皆さんの熱気に雲が押され全日程終了することができました。

ですが、タイムスケジュールの不具合により試合が前後してしまったり、3on3やフットサルはルールが難しく、選手たちの判断





ですませてしまつたこともあり、球技大会を仕切るといふことがどれほど大変なものかというのも実感しました。それでも、体育会のメンバー、審判役員の協力もあり、無事終えることができました。心から感謝しています。また、なぜか胸上げしてくれたドッチボールの優勝チームのみなさん本当にありがとうございました。

チャレンジしつづけることとは？

海洋生命科学部（旧 水産利用学） LME 7期生 藤田 伸治



「教授は、退職されて大学を離れると何を思っていますか？」
海洋生命科学部 LME 研究室の川内浩司先生は、2年

前に大学を定年退職されました。現在は仙台に在住されています。

私は転勤で、3年前より隣の山形県に住んでいます。そのため先生との交流は年2回ほどお会いする形で続いていました。そんな折、川内先生より「写真展エベレスト街道の名峰」を開くというメールが突然舞い込んできました。場所は仙台市役所の近くオンワード櫛山のスクエアギャラリーとのこと。6月30日～7月12日の2週間の展示となるそうです。梅雨の合間の青空の下、土曜日の昼下がりのギャラリーにお邪魔してみました。展示会場はガラス張りです。側からも良く見える絶好のシチュエーションでした。川内先生と奥様がニコニコしながら受付で向かえてくれました。「ワシヤもうしやべり疲れた、ゆっくり見ていてくれ。」との言葉に、写真展は盛況なんだなと感じました。受付の回りには、各方面で活躍している研究室の卒業生からのお花がきれいに飾られていました。会場の設営は先生と知人の手作りとのことでしたが、互い違いにブースが設けられており、ゆっくりと写真を鑑賞するように工夫されています。入り口の3枚の写真は、渾身の作品で、朝焼けのエベレスト、青空の輝くエベレスト、夕陽

に染まるエベレスト、を同じ画角で時間を替えて撮影されたものです。特に夕陽のオレンジ色が素晴らしい。先生におねだりして焼きましてもらうことにしました。A3ノビの大きさですが、なんとプリントも全て先生がご自宅で手作業だそうです。そして先日、サンフランシスコからきたお客さんは、写真を売って欲しいと申し出たそうです。販売目的ではなかったのですが、いくらにして良いかわからず1枚1500円にしたそうです。

もつと吹っかければいいのにも思いましたが、そこは良心的な先生です。翌日取りにきたその方は、「家を新築したのでそこにも飾りたい」と更に追加注文しました。先生の写真はアメリカのどこかの家で飾られているはず。ここで先生の歩いたルートをちよつとだけ紹介します。ネパールのエベレスト街道をカラパタルからゴークョピークまで歩いたそうです。当然4km以上の高地帯なので、いきなり行つて歩くことはできません。仙台市内に唯一ある高地トレニングジムで酸素マスクをつけ対応する体作りから始めました。近くの山にも毎日脚力をつけるために登山したそうです。また奥様の陰の支えも相当だったと思います。そんな努力のすえの写

真展です。最終日の12日には写真展の成功を祝つてささやかなパーティーがご自宅にて催されました。研究室卒業生を中心に、現職の高橋教授もお越しになり総勢17名が集まりました。河北新報の記者も写真展の取材に参加されました。そこでのトピックは川内先生が「日本内分泌学会マイスター賞」を受賞したと言うニュースです。京都大による医学系の賞ですが学会に貢献したことによる受賞です。またレベルは違いますが、卒業生一同よりLME感謝状と記念品の贈呈がありました。記念品はフレンチ料理人の三ツ星マーク付きの割烹着です。それを着ての記念写真で会をおおいに盛り上がりました。私は大学を離れて26年が経ちますが、先生からはいつも目に見えるエネルギーをもらっています。今、与えられている環境で、最善をつくす。そんなメッセージを感じます。LMEの研究室で学ぶことができたことを、本当に感謝しています。次は先生がまたどんなチャレンジをするか楽しみです。



見たい・知りたい・話したい

■水産生物化学研究室・児玉正昭先生退職記念パーティー 開催予告！

水産生物化学研究室卒業生の皆さまへ、イベント開催の予告です。時が経つのは早いもので、児玉先生は来春3月に定年退職される予定です。先生の新たな門出を祝福し、併せて研究室同窓生の交流を深めるため、標記イベントを来春5月頃に東京で開催すべく、準備を進めています。詳細な日時や場所は三水会HPや次回の三水会会報に掲載予定です。

お問い合わせ先は、三水会HP <http://kitasato-sansuikai.jp/> の“イベント紹介”ページをご覧ください。

■「九州地区親睦会」の御案内

九州地区親睦会を下記の通り、鹿児島市で開催いたします。

来賓に小林正典先生をお迎えして、「篤姫」ブームでもあり、歴史探訪を兼ねて多数の参加をお待ちしています。

日時：平成20年11月8日(土) 18:30～受付 19:00 開宴

場所：「黒豚料理 あぢもり」(鹿児島市千日町13-21)

TEL 099-224-7634 <http://adimori.com/>

会費：8,000円

申し込み：E-mailかFAXで下記まで、お名前・卒業年度を明記の上、お申し込み下さい。

申し込み先：三水会事務局 「九州地区親睦会」

E-mail information@kitasato-sansuikai.jp

中村 義幸 (10FA)

E-mail ecofarm@ecopig.jp FAX 0994-65-2781

■三水会ホームページをご利用ください。

三水会では、会員の皆様に向け、総会の告知、活動の報告、各地域や研究室などの懇親会のご案内、大学や卒業生・三陸の情報提供などを、ホームページでお知らせしています。また、今まで「三水会会報」と共にお送りしていました「水産学部だより」の発送を、WEB公開に切り換えさせていただきました。今後はホームページ内からリンクしておりますPDFファイルで閲覧ください。あわせて、三水会会報のバックナンバーも公開しておりますので、ご利用ください。

本サイトは、各種問い合わせの窓口、同窓生間・同窓生と大学・卒業生と在校生の情報共有の場としてフレキシブルに運営していきたいと思っております。是非ご利用ください。

<http://kitasato-sansuikai.jp/>

～訃報のお知らせ～

平成20年4月13日に1980卒・藤本浩二さん、平成20年2月13日に1982卒・永井一基さん、平成20年2月8日に1986卒・大隅靖史さんが逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

ついに今年4月から学部の名称が変更となり、海洋生命科学部第一号の新生が入学する運びとなりました。緒方学部長のお話では、基本的な学部のコンセプトに大きな変更はなく、今後も現状にあわせたカリキュラムの改正や新しい体制作りに取り組んでいくとのことでした。中国の四川省大地震で驚いている最中に、一ノ関周辺を日本最大級の地震が襲いました。さらに、7月に入ると福島県で、岩手県北部で大きな地震がありました。三水会の会員の中に被災の方がいらっしゃればこの場を借りてお見舞い申し上げます。幸いなことに大学の施設には大きな被害はなかったようです。一ノ関周辺の観光スポットでは、甚大な被害を受けているようですが、まだ訪れていない厳美溪が姿を変えてしまったとの報道には、私と同じように残念に思っている方も多いと思います。被災地の早期の復旧を祈りつつ、新生「海洋生命科学部」の今後の発展と飛躍を期待したいと思います。三水会も新たな仲間とともに活動の輪を広げていければと願っております。